



3月の推し本



『フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか』

堀内 都喜子 // 著 ポプラ社 請求記号 366.7 /ホ/ 資料番号 610104234

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00596940>

【紹介文】世界最年少34歳の女性首相誕生で注目のフィンランド。2018年、2019年と2年連続で幸福度ランキング世界一となり、2019年にワークライフバランスで世界一に。日本とフィンランドでは制度も文化も違うし、同じようにしようとしてもうまくはいかないかもしれない。でも、仕事もプライベートも大切にして「ゆとり」のある働き方、生き方をするフィンランドが羨ましく思います。こんな暮らし方があるのか〜と、働き方改革が始まった日本でも、お手本にしたいことがたくさんあると思える一冊です。

『親の脳を癒やせば子どもの脳は変わる』

友田 明美 // 著 NHK出版 請求記号 493.9 /ト/ 資料番号 610101800

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00596418>

【紹介文】前著『子どもの脳を傷つける親たち』は、マルトリートメント（不適切な養育）を継続的に行うことが子どもの脳を変形させ、PTSDや心の不調の原因と成り得るという衝撃的な内容でした。第二弾となる本書では、マルトリートメントをする親の脳と心も過去にダメージを受けていた実例やデータを示し、虐待の世代間連鎖について脳科学的に説明しています。そして、子どもを育てるためには親だけでなく社会全体の関わりが必要であると、あらためて脳科学者の立場から述べています。児童虐待のニュースが依然として無くならない昨今、次代を担う子どもの健やかな成長のため自分は何ができるのか考えてみませんか？

『なんとかする工作』

青木 亮作 // 著 玄光社 請求記号 750.4 /ア/ 資料番号 610101560

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00596305>

【紹介文】クライアント（子供や妻）からの突然の発注に、その場にあるもので工作し、なんとかしてきた二児の父の作品の記録。

発注にはぬいぐるみのベビーカーが欲しい・ウィーンってやりたい・パーティー気分にしてなど抽象的だったり難しかったりと様々。納期は今すぐ・なるはやでなどとにかくスピード勝負！

共働きなど忙しい現代買えばすぐ手に入るものもありますが、親子で一緒に試行錯誤することでコミュニケーションも深まり、思い出にも残ります。

作品や作品で遊ぶ子どもの写真もたくさん載っており、見ているだけでも楽しめる一冊です。

『ジャニーズは努力が9割』

霜田 明寛 // 著 新潮社 請求記号 770.4 /シ/ 資料番号 610098410

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00594870>

【紹介文】今年に入り2組がC Dデビューや元SMAPの中居くんの独立と話題が豊富なジャニーズ事務所。その活動はテレビの中では歌番組、ドラマやバラエティー、ニュースなど見かけない日はなく、また昨今はYouTubeでも人気のチャンネルになっています。そんな彼らは...ただ「顔がいい」だけで活躍し、デビューできるのでしょうか？

本文中の例にあげているジャニーズの16人はみな、人一倍の努力と自分がやりたいことを続けていくストイックな面々。それが視聴者側からすると余計にキラキラと輝いて見えるのでしょうか。

やりたいことが見つからない...自分に出来ることはなんだろう？そんな時に読んでみると、なにかのヒントがあるかもしれません。

『芥川賞直木賞秘話』

高橋 一清 // 著 青志社 請求記号 910.2 / 夕 / 資料番号 610104093

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00596966>

【紹介文】「芥川賞」「直木賞」は世界でも例のない「文学賞」らしい。毎回、メディアニュースには受章者の名前・顔が映しだされ「一夜にして有名人になり人生が変わる」らしい。何回も候補に挙がるがなかなか受賞されない作家もいる。芥川・直木賞作家で、浮かぶ名前は？年2回の発表で出版界はソワソワするが、図書館だって利用者の「読んでみたい」という気持ちに答えないといけない。

話題の本は、読書力を向上させる。

元文藝春秋・文藝誌編集長だった著者が、候補作品の選定から、選考委員会前後そして決定・発表まで、その現場に携わるからこそ話題の賞の秘話を綴っている。賞ありきの出版界。長い歴史を語るにはこの2つの賞は外せない。

『会いにゆく旅』

森 まゆみ // 著 産業編集センター 請求記号 915.6 / ㊦ / 資料番号 610104408

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597114>

【紹介文】旅をするなら一人旅。他を気にする必要がないから。気ままな一人旅がいい。その土地の息づかい、そこでしか手に入らないもの、そこで出会う人との語らい。旅というのは楽しくもあり、少し寂しくもある。紀行文を読むのは、好奇心をかき立てられる。

森まゆみさんは、本当に文章がうまい。もう、自分がそこに行った気になる。で、結局、自分もそこに行く羽目になる。この本を持って旅に出たい。

『お蚕さんから糸と綿と』（児童書・ノンフィクション）

大西 暢夫 // 著 アリス館 請求記号 630 / ㊦ / 資料番号 620037747

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597257>

【紹介文】わたしたちが身に付けている服。今では化学繊維から作られているものがほとんどですが、虫から、一頭の幼虫から、糸や綿が作られていることは知っていますか？少なくなってしまった養蚕農家が、1cmより小さなおかいこさんを大切に育て、1本1本の生糸・絹糸を作っていく写真絵本です。

食べる物だけではなく、着ているもの、おふとんなども小さな命あるものからいただいているのだなあと、改めて思い知らされます。小さな虫ですが大切な存在という意味を込めて「一匹」ではなく「一頭」と数えるのだそうですよ。

『なかなおりの魔法』（児童書・よみもの）

湯湯 // 作 あかね書房 請求記号 923 / 夕 / 資料番号 620036202

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00596292>

【紹介文】中国生まれのファンタジーもおもしろいです。中国の自然豊かな場所で育った作者。主人公の女子トゥートゥルの住んでいる村も、自然豊かな場所。ある日、トゥートゥルは友だち4人にいじわるをされて、とてもおこって帰っていました。すると、道ばたにすわっていたおじいさんから、腹が立たなくなる方法を教えてもらうのですが、いわれたとおり、4人の顔をひどい顔になる様かいてみると、次の日から4人は学校を休むように、、、。

この本は第2作目になりますが、トゥートゥルのまわりには妖精や仙人、不思議な人たちがよってくるようです。これからどんなふしぎな人に出会っていくのか、楽しみなシリーズです。

問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）

ホームページから蔵書検索もできます



(2020.3.5発行)